

第2版はじめに

初版はじめに

序章 古典／現代法から法思想史を学ぶ意義 1

- 1 法思想史とは何か? 1
- 2 現代の日本法と法思想史 4
- 3 本書の概要 5

第I部 古代・中世の法思想

第1章 自然法思想の誕生

——アリストテレスの自然法思想 13

- 1 ソフィストの自然法思想 14
 - (1) ギリシア・アテナイの民主政 14
 - (2) ソフィストと自然法の視点 15
 - 2 ソクラテスとプラトン 17
 - (1) ソクラテスと悪法 17
 - (2) プラトンのイデア論と『国家』 20
 - 3 アリストテレスと自然法、正義 23
 - (1) 人間の自然と自然法 23
 - (2) アリストテレスの正義論 27
- まとめ 31

第2章 自然法思想と実定法——自然法とローマ法 33

- 1 ヘレニズム時代のギリシア哲学 33
 - (1) 地中海世界の変容 33

(2) ストア派	35
(3) エピクロス派	36
(4) 懐疑派	37
2 ローマの法思想①——共和政期を中心に	38
(1) ローマ人の特性	38
(2) ローマ法の厳格さと属人主義	39
(3) ローマの拡大と法の変容, 法務官の活躍	40
(4) 法学者の役割	42
3 キケロの自然法思想	42
(1) キケロとローマの政治	42
(2) 国家, 法についての思想	43
4 セネカの国家, 法に関する思想	44
5 ローマの法思想②——共和政期以後	49
(1) 自然法, 万民法, 市民法の意味	50
(2) 具体的な問題①——代物弁済の問題	51
(3) 具体的な問題②——危険負担の問題	51
6 ローマ法のその後	52
まとめ	53

第3章 自然法思想とキリスト教

——アウグスティヌスとトマス・アクィナス	55
1 アウグスティヌスの保守的自然法思想	55
(1) キリスト教とローマ帝国およびフランク王国	55
(2) キリスト教への回心	56
(3) アウグスティヌスの国家論	58
(4) アウグスティヌスの法理論	61
2 アクィナスのキリスト教的自然法思想と抵抗権	64
(1) 叙任権闘争と12世紀ルネサンス	64
(2) 神学と哲学の研究	65
(3) アクィナスの国家論	66
(4) アクィナスの法理論	67
(5) アクィナスの抵抗権論	70

(6) アクィナスの正義論	71
まとめ	73

第Ⅱ部 近代法思想の誕生

第4章 近代自然権・自然法思想	
——ホッブズ、ロックと近代国家	77
1 ホッブズの自然権思想	78
(1) ホッブズの自然状態と自然権	78
(2) ホッブズの自然法と国家	82
2 ロックの自然法思想	87
(1) ロックとフィルマー	87
(2) ロックの自然法と自然権	90
(3) ロックの抵抗権論	92
まとめ	97

第5章 自然法思想から人民主権論へ	
——ルソーの社会契約論	99
1 自然法論とルソー	100
(1) 自然人・自然状態・自然法	102
(2) 社会状態と自然法	104
(3) 自然法の拘束力	105
(4) 『不平等論』から『社会契約論』へ	107
2 ルソーの法思想——『社会契約論』	108
(1) 国法の原理	108
(2) 『社会契約論』の課題	108
(3) 先行理論批判	109
(4) 社会契約の性質	110
(5) 一般意志論	113
(6) 主権論	115
(7) 主権と統治の区別	117

(8) 人民集会	118
(9) 主権の制限	119
まとめ	122

第6章 近代市民革命後の法思想 ——カント、ヘーゲルのドイツ観念論 125

1 カントの法思想	126
(1) カント法思想の著作と課題	126
(2) 自由の哲学	127
(3) 適法性と道徳性	128
(4) 法の定義	129
(5) 私法論	130
(6) 公法論	132
2 ヘーゲルの法思想	136
(1) ヘーゲルとフランス革命	136
(2) ヘーゲル『法の哲学』の課題	137
(3) ヘーゲルの自由意志論と法哲学の構成	138
(4) 抽象法	140
(5) 道徳性	141
(6) 人倫①——家族と市民社会	141
(7) 人倫②——国家	144
まとめ	148

第Ⅲ部 近・現代の法思想

第7章 ドイツにおける法実証主義 ——歴史法学、概念法学から自由法運動へ 153

1 法典論争と歴史法学派	154
(1) ナポレオンの支配からウィーン体制へ	154
(2) 法典論争	155
(3) 歴史法学派の形成	158
2 歴史法学からパンデクテン法学・概念法学へ	159

3	ドイツ民法典の制定	163
4	自由法運動の法解釈論	164
	(1) イェーリングの「概念法学」批判	165
	(2) 自由法運動	168
	(3) ヘックの利益法学	170
	まとめ	172

第8章 イギリス型法実証主義の確立

	——ベンサムとオースティンの自然法批判	176
1	ベンサムの自然法, 自然権批判と法実証主義	177
	(1) ベンサムの時代のイギリス	177
	(2) ベンサムの自然法論・自然権論批判	178
	(3) ベンサムの功利主義と法実証主義	182
2	オースティンの法実証主義と分析法理学	187
	(1) ベンサムとオースティン	187
	(2) オースティンの法実証主義, 分析法理学とメインの歴史法学	189
	まとめ	193

第9章 アメリカの法思想

	——自然権思想, 歴史法学からリアリズム法学へ	196
1	アメリカ独立期の法思想	197
	(1) アメリカ独立宣言とジョン・ロックの自然権思想	197
	(2) 違憲審査制と法思想	200
2	法形式主義の時代	202
	(1) 歴史法学	202
	(2) ラングデルのケース・メソッド	205
3	プラグマティズム法学とリアリズム法学	206
	(1) ホームズ, バウンドのプラグマティズム法学	206
	(2) リアリズム法学	211
	まとめ	215

第 10 章 現代の日本法と法思想史——まとめにかえて 217

- 1 憲法とのかかわり 217
 - (1) アメリカ, イギリスの憲法と自然権・自然法思想, 法実証主義 217
 - (2) 日本国憲法, ドイツの憲法と自然権・自然法思想 218
 - (3) 基本的人権の保障・国民主権と法思想史 220
 - (4) 法思想史の観点から見る違憲審査制 222
 - (5) 生存権と法思想史 224
- 2 刑事, 民事の裁判とのかかわり 225
 - (1) 刑事裁判と法思想史 225
 - (2) 法思想史研究と法解釈 229

引用・主要参考文献一覧

人名索引

事項索引

コラム

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 〈1〉 ソクラテスの裁判 18 | 〈12〉 ルソーと共和主義 121 |
| 〈2〉 裁判の正義と立法の正義 30 | 〈13〉 カントの永遠平和論 135 |
| 〈3〉 古代ローマ(キケロ)の共和政 44 | 〈14〉 ヘーゲルとプロイセン国家 147 |
| 〈4〉 トピカ的思考 45 | 〈15〉 ヘーゲルの承認論 149 |
| 〈5〉 近世の新ストア主義——リブシウス 48 | 〈16〉 民族精神とヴィルヘルム・アルノルト 162 |
| 〈6〉 ドナティスト論争とアウグスティヌス 62 | 〈17〉 19世紀ドイツ法学に関する研究 173 |
| 〈7〉 アクィナスの返還理論とサラマンカ学派 72 | 〈18〉 ベンサムの功利主義とトロッコ問題 183 |
| 〈8〉 ホッブズとクック 85 | 〈19〉 オースティンの法命令説と現代イギリスの法理学 191 |
| 〈9〉 ロックとアメリカのインディアン 93 | 〈20〉 独立宣言とリパタリアニズム 199 |
| 〈10〉 近代自然法学派: グロティウスとプーフENDORF 101 | 〈21〉 ルール・事実懐疑主義とリアリズム法学 214 |
| 〈11〉 ルソーとジュネーヴ共和国 106 | 〈22〉 法思想史と死刑制度 228 |